

スーパーマーケットにおけるレジ袋受け取りに関する意識調査

東洋大学大学院 学生会員 ○野方 直樹
東洋大学 正会員 村野 昭人

1. 研究の背景・目的

近年、海洋プラスチックごみ問題を始めプラスチックを巡る地球規模の環境問題への対応が世界的な課題となっている。これを受け日本では、「3R + Renewable」（3R の徹底と再生可能資源への代替）を基本原則とした「プラスチック資源循環戦略」を2019年5月に策定し、持続可能な循環社会の構築に向けたプラスチックの3R等に関する野心的なマイルストーンを設定した。そのマイルストーン達成に向けた具体的施策の第一歩として、2020年7月1日より全国でレジ袋有料化の導入を開始した。価格設定と売上の用途は事業者が自ら設定し、価格設定においては、商品と一体となった価格表示の禁止、1枚1円以上の価格設定などのルールがある。国民生活に身近なレジ袋の有料化をきっかけとして、使い捨てのプラスチックに頼った国民のライフスタイルの変革を目的としている。

そこで本研究では、レジ袋有料化の効果や市民の意識を明らかにすることを目的として、アンケート調査を行う。

2. アンケート調査

(1) 概要

スーパーマーケット（以下、スーパー）におけるレジ袋受け取りに関して、オンラインでアンケートを行った。全体のサンプル数は1000で、男女比は1:1、年齢層（20代以下・30代・40代・50代・60代以上）ごとの回答数が均等になるように調整した。関東に住んでいる人の回答数が少し多いが、地域分布もほぼ均等となっている。

(2) アンケート調査結果

居住地域でのゴミ袋指定の有無について調査した結果を表1に示す。指定されている人が約60%、指定されていない人が40%弱という結果となった。

表1 ゴミ袋の指定の有無

	回答者数	%
指定されている	596	59.6
指定されていない	366	36.6
分からない	38	3.8
合計	1000	100.0

表2 スーパーの利用頻度

	回答者数	%
毎日	66	6.6
週に5~6回	89	8.9
週に2~4回	422	42.2
週に1回	253	25.3
週に1回よりも少ない	108	10.8
全く利用しない	62	6.2
合計	1000	100.0

表3 スーパーでレジ袋を受け取る頻度

	回答者数	%
ほぼ毎回	54	5.8
2回に1回程度	43	4.6
3回に1回程度	42	4.5
4回以上ごとに1回程度	124	13.2
全くもらわない	675	72.0
合計	938	100.0

スーパーの利用頻度について調査した結果を表2に示す。週に2~4回の人約40%と最も多かった。週に1回の人約25%となり、残りの回答はばらける結果となった。

スーパーでレジ袋を受け取る頻度について調査した結果を表3に示す。回答者数の合計が1000でないのは、スーパーを全く利用しないと回答した人を除いたためである。ほぼ毎回もらおうと回答した人が

表4 レジ袋を受け取る理由（複数回答）

	回答者数	%
レジ袋を別の用途に使いたい	132	50.2
レジ袋が安い	32	12.2
レジ袋が無料	25	9.5
マイバッグ等を持ち歩くのが面倒	54	20.5
マイバッグ等の持参を忘れた	139	52.9
その他	9	3.4
特に理由はない	7	2.7
合計	263	100.0

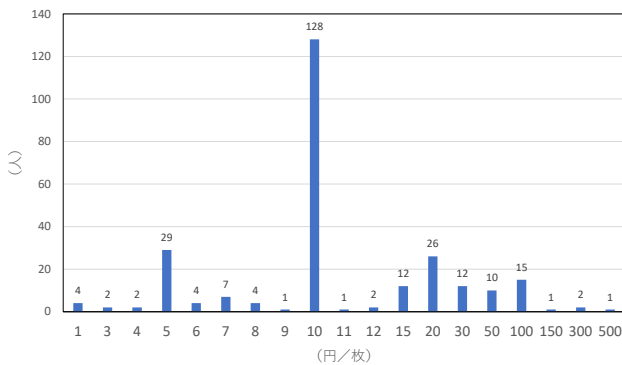


図1 レジ袋の受け取りを辞退する金額

約6%にとどまった一方で、全くもらわない、4回以上ごとに1回程度と回答した人が合わせて85%を超えており、予想していた以上に、レジ袋の受け取り辞退が定着している結果となった。

なお、ゴミ袋の指定の有無がレジ袋の辞退に影響を及ぼすと予想していたが、有意な差は認められなかった。

レジ袋を受け取る理由について調査した結果を表4に示す。この設問は複数回答可として調査した。回答者数の合計が263であるのはスーパーに行く938人の中でレジ袋をもらおうと回答した人数が263人であるためである。受け取る理由として、レジ袋を別の用途に使いたい、マイバックの持参を忘れたという回答の割合が多かった。その他の理由として、買い物をしすぎて持参したマイバックに入らなくなった、弁当を外で買い、食べた後のゴミをそのままレジ袋に入れて捨てたいためといった回答があった。レジ袋の受け取りを辞退するレジ袋の金額について調査した結果を図1に示す。1枚あたり10円という回答が非常に多く、次に5円、20円といった回答が多かった。1円と答えている人は、現在は有料化の

表5 レジ袋を受け取らない理由（複数回答）

	回答者数	%
環境保護のため	184	27.3
資源節約のため	190	28.1
ゴミ削減のため	184	27.3
レジ袋が有料のため	572	84.7
レジ袋を断ると、ポイント制度等の還元があるため	13	1.9
その他	13	1.9
特に理由はない	37	5.5
合計	675	100.0

対象外のレジ袋を採用しているスーパーに行っていてレジ袋を受け取っているが、少しでも金銭を支払う場合には辞退するものと考えられる。一方で、20円以上の回答をした人が予想以上に多かった。そのような回答した人達はどれだけ値段が上がってもレジ袋をもらう意思が固い人であり、環境等についてはあまり関心がないと考えられる。

レジ袋を受け取らない理由について調査した結果を表5に示す。約85%が有料であることを理由としており、環境保護を理由とする回答者は約30%であった。その他の理由として、商品として販売されている袋の方が安い、ゴミ袋として再利用できない、袋が必要なほど購入しないといった回答があった。

全体として、環境保護に対する意識よりも、経済的な要素によって、レジ袋の受け取り行動が変化する傾向が見られた。

3. 結論および今後の展開

本研究ではスーパーにおけるレジ袋有料化に関するアンケート調査を行い、市民の意識を調査した。予想した以上に、レジ袋の受け取り辞退が定着しており、レジ袋を他の用途で使用する、マイバッグ等の持参を忘れたといった理由がある場合に受け取っていることが分かった。今後の展開として、コンビニにおける調査との比較し、プラスチック資源循環戦略の推進に向けて、人々の意識をどのように変えていくか検討する。

参考文献

- 1) 大塚佳臣：レジ袋有料化に対する賛否に影響を与える因子とその影響度の評価，土木学会論文集G（環境），Vol77，No.6（環境システム研究論文集 第49巻），II_1-II_12,2021.